

令和6年第4回教育委員会定例会議事録

令和6年4月15日

東久留米市教育委員会

令和6年第4回教育委員会定例会

令和6年4月15日(月)午前9時33分開会

市役所7階 702会議室

議題

- 第1 議案第11号 令和6年度東久留米市一般会計(教育費)当初予算の補正予算
要求に係る教育長の臨時代理の承認について
- 第2 議案第12号 東久留米市教育委員会点検・評価に関する有識者の委嘱について
- 第3 議案第13号 東久留米市立図書館協議会委員の委嘱について
- 第4 教育委員報告
①令和6年度小学校及び中学校の入学式について

出席者(5人)

教 育 長	片 柳 博 文
委 員 (教育長職務代理者)	宮 下 英 雄
委 員	尾 関 謙 一 郎
委 員	馬 場 そ わ か
委 員	植 村 芳 美

東久留米市教育委員会会議規則第13条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

教 育 部 長	小 堀 高 広
指 導 室 長	小 瀬 ま す み
教 育 総 務 課 長	田 中 徳 彦
学 務 課 長	田 口 純 也
生 涯 学 習 課 長	桜 井 昌 紀
図 書 館 長	島 崎 律 照
主幹・統括指導主事	森 山 健 史

事務局職員出席者

教育総務課庶務係長 野 村 賢 太 郎

傍聴者 2人

◎開会及び開議の宣告

(開会 午前9時33分)

- 片柳教育長 これより令和6年第4回教育委員会定例会を開会します。
本日は全員出席ですので、会議は成立しています。
-

◎議事録署名委員の指名

- 片柳教育長 議事録の署名に入ります。本日の議事録の署名は、尾関委員にお願いします。
○尾関教育委員 はい。
-

◎傍聴の許可

- 片柳教育長 傍聴の許可に入ります。傍聴の方はいらっしゃいますか。
○野村庶務係長 2名いらっしゃいます。
○片柳教育長 お入りいただきます。

(傍聴者入室)

傍聴の方にお知らせします。資料につきましては、お入り用の場合はお持ち帰りいただけます。

◎議案第11号、上程、説明、質疑、討論、採決

- 片柳教育長 日程第1、「議案第11号 令和6年度東久留米市一般会計(教育費)当初予算の補正予算要求に係る教育長の臨時代理の承認について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。
- 小堀教育部長 議案第11号は、「令和6年度東久留米市一般会計(教育費)当初予算の補正予算要求に係る教育長の臨時代理の承認について」です。提案理由は、令和6年度東久留米市一般会計(教育費)当初予算の補正予算要求について、教育長が臨時代理として専決処分を行ったことを報告し、承認を求める必要があるためです。続けて、教育総務課長より補足の説明をさせます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。
- 田中教育総務課長 本議案は、令和6年度東久留米市一般会計(教育費)当初予算の補正予算要求について、本来は教育委員会に付議すべき案件ではありますが、本年第1回市議会定例会の日程を考慮すると第1回教育委員会臨時会への付議が難しかったため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条及び東久留米市教育委員会事務委任規則第3条及び第4条に基づき、第1回市議会定例会へ議案提出した当該補正予算要求について教育長が臨時代理を行ったことに関して報告を行い、教育委員会の承認を求めるものです。

続きまして、補正予算の概略を説明します。資料をご覧ください。

初めに歳出予算に関わるものとして、「1 物価高騰等対応学校給食食材費補助事業【小学校】」が4,569万8,000円。「2 物価高騰等対応学校給食食材費補助事業【中学校】」が1,442万9,000円を計上しています。いずれも食材費の高騰が続く中、保護者の負担を増やすことなく学校給食を円滑に実施するため、各校の学校給食費に対し市が補助を行うものです。

次に、歳入予算に関わるものとして、財源の8割は物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用しています。

- 片柳教育長 説明が終わりました。ご質問はありますか。——よろしいでしょうか。
よろしければ以上で質疑を終わります。

これより議案第11号の討論に入ります。いかがですか。

○宮下教育委員 討論省略。

○片柳教育長 討論省略と認めます。

以上で議案第11号に係る討論を終わります。

これより採決に入ります。「議案第11号 令和6年度東久留米市一般会計（教育費）当初予算の補正予算要求に係る教育長の臨時代理の承認について」を採決します。本案を可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

（全員挙手）

○片柳教育長 全員挙手です。よって、議案第11号は承認することに決しました。

◎議案第12号、上程、説明、質疑、討論、採決

○片柳教育長 日程第2、「議案第12号 東久留米市教育委員会点検・評価に関する有識者の委嘱について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。

○小堀教育部長 議案第12号は、「東久留米市教育委員会点検・評価に関する有識者の委嘱について」です。提案理由は、「令和6年度（令和5年度分）東久留米市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書」の評価を行うため、有識者を委嘱する必要があるためです。続けて、教育総務課長より補足の説明をさせます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○田中教育総務課長 配付資料につきましてはホッチキス留め3枚組の資料があります。資料2枚目の「有識者名簿（案）」をご覧ください。この点検及び評価を行うに当たりましては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとするため、毎年度2名もしくは3名の方に有識者としてお願いしているところです。

今年度は昨年度に続き、聖路加国際大学客員教授、東京理科大学非常勤講師、東京農業大学非常勤講師の並木正先生と、新たに全国小学校国語教育研究会顧問、国語教育科学研究会副会長の藤井英子先生のお二人に委嘱したいと考えています。

続きまして、今後の予定について説明します。

令和5年度事業の取組状況の事務局からの説明につきましては、今後事業に係る決算数値が整いましたら、6月の第6回定例会までの間に各事務局が随時行ってまいります。

学校視察と点検・評価説明会は6月28日（金曜日）の午後を予定し、視察先は大門中学校を予定しています。視察後、市役所において説明会を開催します。説明会では、各所管事務局から報告書のポイントを説明し、有識者からのご質問をお受けする流れを考えています。有識者からの評価報告書につきましては、7月中旬をめぐりにご提出いただく予定です。その後、8月の第8回定例会に議案を付議し、ご承認いただければ庁議報告を経て、市議会に報告する予定です。

○片柳教育長 説明が終わりました。ご質問はありますか。

○尾関教育委員 新しい方の年齢というのは書かないものなのでしょうか。

○片柳教育長 経歴等の紹介には書いていないと思います。これまでも書いていなかったと思います。

○尾関教育委員 分かりました。結構です。

○片柳教育長 ほかはよろしいでしょうか。よろしければ以上で質疑を終わります。

これより議案第12号の討論に入ります。いかがですか。

○宮下教育委員 討論省略。

○片柳教育長 討論省略と認めます。

以上で議案第12号に係る討論を終わります。

これより採決に入ります。「議案第12号 東久留米市教育委員会点検・評価に関する有識者の委嘱について」を採決します。本案を可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(全員挙手)

○片柳教育長 全員挙手です。よって、議案第12号は承認することに決しました。

◎議案第13号、上程、説明、質疑、討論、採決

○片柳教育長 日程第3、「議案第13号 東久留米市立図書館協議会委員の委嘱について」を議題とします。教育部長から説明をお願いします。

○小堀教育部長 議案第13号は、「東久留米市立図書館協議会委員の委嘱について」です。提案理由は、委員の任期が令和6年3月31日に満了したことにより、新たな委員を委嘱する必要があるためです。続けて、図書館長より補足の説明をさせます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○島崎図書館長 本案は、令和6年4月16日から令和8年3月31日を任期とした東久留米市立図書館協議会委員を委嘱するものです。

図書館協議会は、図書館法第14条に基づき、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき館長に対して意見を述べる機関として設置しています。また、東久留米市立図書館協議会設置条例第2条において、定数を10名以内とし、同条第3条で任期は2年、また再選を妨げないとしています。

今回、全委員の任期満了により、令和6年4月からの任期2年間の新たな委員の委嘱を提案するに当たり、10名のうち4名が再任です。

お手元の資料「東久留米市立図書館協議会委員名簿(案)」をご覧ください。

新任は第1号委員である学校教育関係者として、東久留米市立南中学校長である若澤直樹氏。

第2号委員である社会教育関係者として、特定非営利活動法人多言語多読理事である川本かず子氏。

第3号委員である家庭教育の向上に資する活動を行う者及び学識経験者として主任児童委員である丸山美緒氏及び駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所指導員である下平尾直氏。

第4号委員である公募による者として、豊田達也氏及び三原明津子氏を選出しています。若澤氏は東久留米市立中学校長会からの推薦による選出です。

川本氏は、都内図書館とも協働実績がある外国人のための多読ワークショップを実践。また、日本語学習者向けのやさしい読みものを制作、監修、出版されている団体の理事をお務めです。

下平尾氏は、市内にあります数少ない出版社の代表取締役であり、その経験を生かして駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所指導員をお務めの方です。また、図書館で開催する図書館フェスにおける「ひとハコ図書館」館長として、開始当初から毎年ご協力をいただいています。

丸山氏は、東久留米市民生委員・児童委員協議会からの推薦による選出です。

豊田氏、三原氏は広報及びホームページで公募し、応募者の中から書類選考及び面接により選出された方々です。いずれの委員もそれぞれの専門分野や利用者としての視点から様々なご意見をいただきたいと考えています。

○片柳教育長 説明が終わりました。ご質問はありますか。——特にご質問はありませんでしょうか。

よろしければ質疑を終えまして、これより議案第13号の討論に入ります。いかがですか。討論はよろしいでしょうか。

○宮下教育委員 討論省略。

○片柳教育長 討論省略と認めます。

以上で議案第13号に係る討論を終わります。

これより採決に入ります。「議案第13号 東久留米市立図書館協議会委員の委嘱について」を採決します。本案を可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(全員挙手)

○片柳教育長 全員挙手です。よって、議案第13号は承認することに決しました。

◎教育委員報告

○片柳教育長 続いて日程第4、教育委員報告「①令和6年度小学校及び中学校の入学式について」に入ります。なお、3月に行われました小学校の卒業式について、ご意見、ご感想をいただいていませんので、併せてご感想等あればよろしくお願ひします。

では参列されたご感想等ありましたら伺いたいと思いますが、いかがですか。尾関委員、お願ひします。

○尾関教育委員 3月25日の卒業式から感想を述べたいと思います。私は七小の卒業式に参加しましたが、5年生が出席したのは4年ぶりだということで卒業生から引継ぎの言葉がありまして、5年生のバトンタッチの意識というのははっきりしたと感じました。校長先生をはじめ皆さんそういう感想もされていて、良い式だったと思います。

次いで入学式もそのままお話ししたいと思います。8日の小学校の入学式は三小の入学式に参加しました。1年生は入学したてということですが、迎えた新2年生の成長ぶりが体格も様子も非常に際立っていたと思います。校長先生をはじめ、この2年生の様子を見て学校の成果ということですので、保護者の方は新2年生をそういう目で見てほしいというふうにされていて、私どもも新2年生はしっかりしているなどという印象を受けました。

また、4月9日の下里中に参加しましたが、中学生ですので新入生といっても言葉も態度も非常にしっかりしたと思いますが、もう一つ、新3年生が新入生に言葉を贈っていましたが、自分の新入生のときの不安とかそれを解決していく道筋をしっかり述べていまして、新入生に対して自分の言葉で「大丈夫だから」ということが伝わっていきまして、これは新入生も非常に心強いのではないかなという感じがしました。

○片柳教育長 ありがとうございます。

植村委員、お願ひします。

○植村教育委員 第六小学校の卒業式の感想として、6年生のはかま姿が結構目立っていました。神宝小学校もそうだったかと思ひます。「二十歳(はたち)のつどい」のときも、はかま姿について私は感想を述べさせていただいたのですが、卒業式の服装でも困ってしまうようなご家庭があるのではないかなどが気になります。やはり地域の中での配慮が必要なのかなと思ひたりします。なぜそう思ったかという、この市内ではないのですが、中学校の制服を小学校の卒業式で着たという小学校があったという事例があって、様々なご家庭への配慮からと聞いたので、そのことも含めて気になった部分です

それから、マスクをつけている卒業生もいました。そのこと自体は別に問題ないのかもしれない

れないのですが、そこに心理的なものがあったりする背景がある場合もあるので、その辺りも気をつけながら見ていました。

小学校の卒業式は、第六小に行きました。雨が降ってしまったのですが、校長先生のお話で「目をつぶってください」という言葉に、子どもたちがしっかり目をつぶって考えている様子が見られ、良い小学校生活を送ってきたのかなと思わされる場面がありました。最後に卒業生が前に並び全員の顔が見られる形で呼びかけがありとてもよかったです。

それから、東中の卒業式についてもここで述べてよろしいでしょうか。保護者の皆様方へ生徒の顔が見える形でやるというのは昔からやられていて、東中もその形が非常によかったです。その中で先生方に対するお礼の気持ちというのが東中の生徒から自然に出ていて担任の先生が泣いてしまうようなシーンもあり、子どもたちの自発性に基づいて呼びかけの中にそういうものが入っていたのかなど。その辺りもとてもよかったですと思いました。

小学校の入学式では神宝小学校に出ささせていただいて、気になったのは新一年生が35名ぎりぎりだったんですね。あと一人増えれば2学級になるという非常に残念に思う形の1学級でした。「なのはな」には5名のお子さんが入学し、ちゃんと座っていて素晴らしかったです。そういう中で感じたこととしてインクルーシブ教育が注目される中、情緒の固定学級については今後どういう形にしていくのか教育委員会として考えていかなければならない問題なのかと思いました。あと、卒業式でも入学式でも思ったのですが、支援学級のお子さんたちの入場や退場について気になる次第です。支援学級が一番最初に入場というところも見たことがありますけれども、そうすると見本がないので難しかったり、いろいろな課題があると思うのですが、支援学級が常に一番最後の入退場という状況ではなくなってきつつあるなというのをすごく感じています。最後に入場するというのはあっても良いと思うのですが、そのときには、いつも最後という状況ではなく、先生方の意識が「最後の学級」というようなもので定着してしまうことがないよう、ちゃんとみんなで話し合った上で共通理解の中でやるのが大事だと思います。今回、神宝小は、「なのはな」5人で、なのはな学級が最後に入場して、最後に退場したという状況でした。多分、見本が目の前にあったほうが良いという配慮があったと思いますが、そういうことも気にしていくことが必要かと思っています。小学校の入学式はとても良かったのですが、私の経験上なので、私は入学式は平場で行うと思っていました。つまり校長先生のお話は壇上でなく平場であるものと思い込んでいたんですね。本市の祝辞も平場で読むものと思い込んでいて、子どもたちの顔を見てどう話そうか思っていましたら、壇上だったので戸惑いました。神宝小の校長先生は壇から降りられて、子どもたちの目線に合わせて「挨拶をしましょう」というような話をされていました。私も下に下りて話したかったのですが、それも急だったので、壇上で話したのですが、やはり一年生ファーストと考えれば、祝辞は子どもたちの目線に合わせて読みたいなど、私としては非常に強く思いました。そのことについては学校の自主性に任されているのか、それとも市としての方針なのか、気になりつつありますので、またいろいろ教えていただければと思います。

あとニュース報道で墨田区だったと思いますが、始業式をやった二日後に入学式をやり、その感想として、担任の先生は、その二日間の間に「子どもたちの支援シートなどゆっくり見られて非常によかった。」という感想を述べられていました。そういったあたりも、多様性の時代、考え方が変わってきているので、いろいろな方法があるということについて考えさせられました。話が前後しますが、神宝小が、1学級になってしまい残念だなと思ったの

ですが、そこに二人の支援員さんが就くということで紹介がありました。ほっとします。本市は、私が知っているところに比べると、支援の先生を本当にうまく活用してくださっているなというのを思っています。中学校の入学式も、とても良い形でできたのですけれども、中学校は生徒の呼名があり、全員の名前をちゃんと読み上げてくださって返事ができ入学許可になりますね。小学校もその昔呼名があったように思いますが昨今はなくなっています。今「時間の関係上」という言葉が入学式も卒業式も必ず入ります。そのため「祝電は割愛します」と祝電の紹介も全くない中で、大門中の入学式では神宝小と二小の祝電を読み上げてくださいました。私は祝電を「どこそこに貼ってありますので見てください」は、しようがないと思うのですが、「時間がないので」というのは、何かちょっと・・・昔は祝辞はPTA会長からなどいろいろあって本当に長い卒業式だったという記憶があるのですが、最近は祝辞は一つになっていて、全体の時間は短くなってきています。祝電披露や呼名等については、内容や学校の規模に応じて考えていってもよいのではと思います。全部やる必要は全くないのですが、幼稚園・保育園だと、全ての子どもたちに関わるところが一園というわけではないので難しいとしても、小学校では前担任、中学校では小学校の先生方の祝電を披露していただけたらと思います。大門中学校ではやってくださってよかったと思いました。以前小学校の先生方の祝電披露に「おお」という歓声が上がったことがあり記憶に残っています。

○片柳教育長 ありがとうございます。ほかの委員からはいかがでしょうか。

馬場委員、お願いします。

○馬場教育委員 小学校の卒業式は二小に行きました。とても温かい雰囲気、すてきな卒業式でした。祝辞がちょうど大谷選手の——今でこそもうクリアになったのですが、本当にまだグレーの状況のときだったので、あのまま読んで良いのかすごく悩んでちょっと言葉を変えさせていただきました。その前にいつも、「私はここにいるけど、みんなと一緒に同じぐらいの子どもがいるお母さんです」というふうに話を切り出すと、みんなよく聞いてくださって、保護者の方もよく聞いてくださって、会場にいた子が「何か空気が柔らかくなったよ、おばちゃんの話で」と言ってくれて、そんなふうに届けば良いなと思って、お話しして「よかったよ」と言ってくださった方が後にもいました。

小学校はそんな温かい雰囲気、卒業式ができて、校長先生のお話とかも本当に温かくて励ましがあがり、在校生も二小の子たちはみんな一緒に大門中に行くので、そんなに学校内で分かれる子というのは、多分、私立とか公立の別中に行く子だけなので割とほっとした感じで、神宝小学校とかだと別れてしまうので結構泣いちゃう子とかいるのですが、何か温かい感じでとてもよかったです。

入学式なのですが、南町小学校は本当に、見ていてかわいいなという感じで、もうみんなよく座ってお話を聞いていたし、着任初めの校長先生だったので、大きい言葉が書いてあるプレートと絵を使って、子どもたちが、式辞とはいえ話をちゃんと聞ける工夫をしてくださっていて、子どもたちも楽しそうに聞いていて、そしてその話とご用意していただいた式辞が本当にリンクするものだったので、「先ほど校長先生がお話ししてくださったのと同じなんですけど」という感じでお話できて、それに関してはとてもよかったなと思います。

久留米中学校のとき、中学校の式辞も校長先生がお話ししてくださったのが教育委員会の祝辞と本当にほぼ一緒というか、そういう感じだったので、「校長先生がおっしゃっていたように」という形でお話できたのでとてもよかったなと思います。どちらの学校も、小学校

も中学校もなんですけど、在校生の子たちからの「いらっしゃい」という感じがすごく伝わって良い式だったなと思いました。

あと、久留米中学校で思ったのが、多様性ということなんですけど、女の子でもズボンをはいてネクタイという子が何人かいて、ちょっと雰囲気が変わってきて、それもよかったなと思いました。

○片柳教育長 ありがとうございます。

最後になりましたが、宮下委員、よろしくお願いします。

○宮下教育委員 まず入学式のほうからお話をしていきたいと思いますが、私は小山小学校と南中学校の入学式に出席をしました。

初めに小山小学校のことについて報告しますが、74名の新入生でした。コロナ禍により様々な制約が課せられていた学校行事から久しぶりに制約が解除された入学式ではなかったかなと思っています。そして保護者もいっぱいでした。これからの学校生活をお祝いするかのごとくに桜の花も満開というよりも超満開という感じでしたね。そんな感じで日和も大変暖かく入学式日和であったのではないかなと思っています。

それから、校門に掲げられていました「令和6年度 入学式」の文字がくっきりと輝いて見え、その前で順番に写真を撮影する姿が多く見られました。久しぶりに見られる入学式の光景ではなかったかなということを強く感じました。

6年生の誘導で入場した新入生でしたが、とてもしっかりしていて、入場もしっかりし、話の聞き方も大変すばらしく、その姿を見ながら、就学前に培ってくださったご家庭をはじめ関係各位のご尽力がそこにあったのではないかなと思って、とても感謝したところです。それと同時に、これから始まる小学校教育の責任と使命というものを私自身強く感じ取ったところです。

式次第の中に学校の校歌の紹介がありました。在校生と教職員が大きな声でしっかり歌っているのには私は感銘を受けました。その校歌の中に「元気あふれる 小山の子」「いつも仲よく 小山の子」「やって やり抜く 小山の子」、この三つの言葉は教育目標のキーワードにもなっているのですね。保護者にもそのキーワードが響き伝わったのではないだろうかということを感じた小山小学校の入学式でした。

それから、南中学校、新入生163名、5クラスの入学式です。。前日の暖かな日和から一転して嵐の中の入学式でした。雨傘の行列、それから満開の桜の花びらが校庭を舞っていました。校庭には大小様々な大きさの水たまりが校庭いっぱい広がっていました。その水面を桜の花びらが覆っています。桜に染まった校庭、こんな美しい校庭の光景は、私は見たこともありませんし、すばらしい入学式を飾ってくださったのではないだろうかということを感じました。全てが入学式を祝う天からの恵みの雨がもたらしてくれた「祝福の演出」だと強く感じました。

新入生代表の誓いの言葉がありました。中学校生活で何を学ぶのか、しっかりした目標が述べられていて、子どもの自覚した中学校への進級ということを感じ取ったところです。

最後になりますが、小学校の卒業式ですが、私は第三小学校に出席しました。卒業生85名、校長先生の式辞の中で改めて私自身が認識させられたことがありました。それは全員に授与した卒業証書を校長先生が式辞の中で開かせ、そして「卒業証書の中で、3か所、一人一人に違うところがありますよ」ということを諭しました。「それは名前と生年月日と、それから卒業証書の番号です」。卒業証書に記されていることの意味、価値、歴史と伝統について語られていました。多分、子どもたちは卒業証書を開くたびに、その重みを強く感じ取

ることができるのではないかなと思いました。

また、はなむけの言葉としては皆さんもご承知だろうと思いますが、小泉吉宏さんの詞ですね。『一秒の言葉』を朗読されていました。「はじめまして」「ありがとう」「がんばって」「おめでとう」「ごめんなさい」「さようなら」、そのことの意味を朗読の中で語っていただきました。

この一秒ほどの言葉は、どれもみんな一秒ですが、一秒ほどの言葉が人と人の心をつなげ、また幸せをいっぱい広げる、そんなすごい力を持っている言葉なんだということ、これから大いに自分から発して生きてほしいなということをお話しされました。この詩は多くの人々の心に反響のあった詩ではなかったかなと思っています。その言葉を、校長先生の式辞でのその詩の中から、私自身自戒をさせられた次第です。

- 片柳教育長 各委員の皆様、卒業式、入学式につきまして、ご感想、ご意見等いただきましてありがとうございます。

いただいたご感想等については機会を捉えまして各学校の校長にも伝えてまいりたいと思います。

ほかに委員の皆様からご報告はありますか。植村委員、お願いします。

- 植村教育委員 すみません。先ほどの話に戻ってしまいますが、宮下先生から校歌のお話が出てきたので、校歌についてなのですが、東中学校の校歌の中に「男には男の道 女には女の道」というところがあるのですね。卒業式が終わってから副校長先生と並びながら話して、副校長先生もそれについては悩んでいらっしゃるし、校長先生もいろいろ思っているということでした。

もう一つ、大門中学校の入学式が始まる前に、入学式の来賓である校長先生、議員さん、民生委員さんなどがいらして雑談をする時間がありました。その時神宝小学校の学区を考えた話があって「そこに教育委員がいますから、教育委員会で伝えてください」というようなことを雑談の中ではありましたがいわれましたのでここでお伝えしておきます。

それから、学校だよりが全てまとめて送られてきました。学校だよりは巻頭ページに校長先生方の思いがたくさん書かれていて、情緒的だったり、そうではなかったり様々ですが、いずれもこの一年への校長先生の意気込みが感じられました。とても大事な第一面になると思います。二面、三面には、学校職員の紹介があるのですけれども、その紹介の中に支援教室の巡回教員の名前がないところが2、3校あったような気がします。それは、ただ単に記入漏れということもあるかと思うのですけれども。もう一つ校長先生の挨拶の中に「目指す教師像」というのがあって、私は非常に目新しく感じました。教職員の目指す教師像とか教職員の行動指針が書かれている学校があって、その校長先生の意気込みがその中にもあるのかなど思ったりしました。それから「一人の児童に対して教職員全員が担任である」ということが書いてある学校があって、そういう感覚があると、単学級になってしまうようなところもある中で、子どもたち一人一人が救われるなと思いました。今回学校便りがまとめて送られてきましたので感想を一言述べさせていただきます。

- 片柳教育長 どうもありがとうございます。ほかに委員の皆様からよろしいでしょうか。事務局からはありますか。——大丈夫ですか。

◎閉会の宣告

- 片柳教育長 以上をもちまして、令和6年第4回教育委員会定例会を終わります。

(閉会 午前10時16分)

東久留米市教育委員会会議規則第28条の規定により、ここに署名する。

令和6年5月10日

教育長 片柳博文（自書）

署名委員 尾関謙一郎（自書）